



「日々恐怖を感じていた」 芦屋市の50代男性幹部が複数職員にパワハラの疑い

兵庫県芦屋市役所の50代の男性幹部が、複数の職員にパワーハラスメントをしていた疑いがあることがわかりました。



「やれと言ったらやれ」「お前が言うことはいつも嘘やからな」。これは芦屋市役所の男性職員が上司から受けたパワハラ被害について書き記したメモ

です。メモには「言動などが日々エスカレートしていて、身体にまで危害を加えられるのではないか」と悪化するパワハラへの恐怖がつづられています。被害を受けた男性職員がABCテレビの取材に応じ、当時の状況を話しました。「本当に生きた心地がしませんでしたし、日々恐怖を感じていました。職場としても活気はなく、ギスギスしていたという状況です」。今回のパワハラ疑惑は、芦屋市が進めようとしているJR芦屋駅南側の再開発に関連する部署で起きました。パワハラをしていたとされるのは、50代の管理職の男性で、主に2人の職員に対し、数年に渡って行われていたといいます。去年8月には、10人近くの職員が連名で、パワハラの調査を人事局へ依頼しましたが、調査結果は公表されず、パワハラの疑いのある管理職の男性への処分もなかったということです。16日、芦屋市議が本会議の一般質問で市長らに対し、この疑惑の有無や組織的な隠ぺいの可能性について問いましたが・・・。「個別の事案にはお答えできません」「個別の内容はお答えできません」（総務部長）。「この件については、当局は個別事案についてはその有無そのものを事務の性質上、答えられないと答弁しています。このまま質問を続けても（議論が）並行線になると思われます」（市議会議長）。市長らは個別の事案であるとして回答せず、一般質問は途中で打ち切られました。また、パワハラの調査を依頼された芦屋市の人事局の職員は「相談された事案について調査は漏れなくしている」としたうえで、改めて事実確認をしたいとしています。